

ユニバーサルワークフローにより、障害がある人たちが戦力となって活躍してくれています！



障害がある人たちにとっても、働くことにチャレンジできる場が増えました！

株式会社コネクトア라운드

代表取締役 浅井 司さま

ダンウェイ株式会社

代表取締役 高橋陽子さま

ユニバーサルワークフローを開発！ 農業で障害者就労を支援

新たな農業ビジネスを推進するコネクトア라운드と、障害者の就労支援を行うダンウェイが共同開発した「ユニバーサルワークフロー」。現在いかなる価値を生み出し、そして次なる夢とは？コネクトア-roundの浅井社長とダンウェイの高橋社長で熱く語り合っていました。

パートナーシップのきっかけとは

浅井 自社の事業「FUN EAT MAKERS 武蔵新城」で障害者雇用を支援するにあたり、従来の水耕栽培のマニュアルの書き換えが必要だと考えました。というのも私たちは福祉のプロではありませんので、障害がある人たちはどのようなことが理解できて、どんなことができるのかということが分かりませんでした。そのため業務で必要なサポート器具の制作先を探していましたが、なかなか難しく…。そんな中で偶然、「ダンウェイさんにご相談してみたら？」と勧められたのです。さっそく高橋社長に会いに行き、こういう取組をしたいとお話すると「できますよ」と即答！衝撃的な出会いでしたね。

高橋 私もし浅井社長の想いにとても共感しました。農業の課題解決をしたいということ、そしてこれまで働く機会に恵まれなかった人も活躍できる場を創出できるという話

パートナー

ダンウェイ株式会社



- 創業:2011年1月4日
- 所在地:神奈川県川崎市中原区新城1-12-15
- 事業内容:障害者就労支援
(就労移行支援、就労定着支援、就労継続支援B型、自立支援)／
障害児支援(放課後等デイサービス)、
障害者雇用支援・コンサルティング、ICT事業、教育事業
- 代表取締役:高橋陽子
- 従業員数:25名

を伺い、私たちの理念と非常に一致すると確信し、初対面でガッチリと心を掴まれたのです。

私たちは障害者の就労支援を行うため、「シームレスバディ」というシステムを作っています。誰が見ても障害のある方の能力が分かるように、可視化する電子カルテ・ツールです。その仕組みを活用して、職場の環境整備をする「ユニバーサルワークフロー」を共同開発することで、より働きやすい環境作りを実現できると考えました。

パートナーシップを組むことで生まれた効果

浅井 私たちとしては、新たな農業のビジネスモデルを構築し、今まで農業に参入したことのない企業にも取り組

株式会社コネクトア라운드
代表取締役 浅井 司さま

ダンウェイ株式会社
代表取締役 高橋陽子さま

んでもらうことで、農業自体を活性化させたいという思いがあります。また、障害者雇用に関しては、ユニバーサルワークフローの開発によって、会社の中で戦力となり活躍できる人たちを育成することが目標でもありました。

高橋 私自身も農業という新しい分野に参画させていただき、一緒に歩めることに期待がありました。農業分野に特化したコネクトア라운드さんと、人の能力を引き出すことに取り組むダンウェイ。お互いの考え方が一致し、コラボすることによって、2倍以上の効果を発揮する可能性があるのではないかと感じました。

浅井 ユニバーサルワークフローを共同開発したことは、制作にかかったコスト以上の価値があると実感しています。コミュニケーションの重要性に改めて気づかされると共に、人とのコミュニケーションはすごく曖昧で、相手が自分の言ったことをどこまで理解できているか分からない。物事の捉え方は人それぞれ違うので、その前提のもとで話し合い、業務提案をしていくことが重要なんですね。これは障害者雇用に関わらず、全ての仕事の現場で導入するべきだと思っています。

高橋 実際にユニバーサルワークフローを開発するためには、まず現状のワークフローを把握しなければいけません。例えば、水耕栽培のやり方の流れを見てみると、一見、システマティックですが、実際には意外とアナログな作業がいろいろあることに気づきました。そこへユニバーサルワークフローを導入することによって、従業員の適性を判断し、それぞれの得意分野に配置することができます。一人一人の生産性が上がり、改良を重ねることで活躍できる部分は広がることが分かりました。

また、ほとんどの企業が障害者雇用で抱える問題は、指示がうまく伝わらないことです。指示の出し方が正しいかなど、コミュニケーションで工夫すべき点も今回のコラボによってより明確になりました。

ユニバーサルワークフローを次のステップへ

浅井 今、取り組もうとしている次のステップは、ユニバーサルワークフローをたくさんの企業に導入していただき、各地域にお住いの障害がある方たちが雇用される場を増やしていくことです。そこで重要なのは従業員に指導する人の育成です。ユニバーサルワークフローは説明して、実際に見ていただくことができますが、一緒に実践して定着させることが必要なのでリーダーになる人が欠かせません。

障害がある人の適性を判断し、その人が受け取れる形の



情報を提供することによって、しっかりと戦力となって働くことができる。そうした指導ができる人を育成する教育も不可欠なので、チャレンジしていこうとダンウェイさんと話し合っています。

高橋 今、私たちの事業分野は過渡期で、色々な企業で障害がある方を雇用しようという動きが進んでいますが、より重度の知的障害がある方たちの採用にも取り組んでいく動きがあります。

そうした時代にあって、コネクトア라운드さんはすでに先頭を走っています。それは他の企業から見れば、勇気をもらえるようなチャレンジだろうと思いますし、私たちも一緒にやらせてもらっていることでさらなる社会課題の解決に取り組んでいきたいですね。

今後の展望とは

浅井 この「FUN EAT MAKERS」の事業を全国に広げていくことです。まずは各地域で障害のある方たちに働く場を広げていく。そして、いずれは障害がある人だけでなく、多様な働き方を求めている人たちへと展開していきたいです。様々な働き方に合わせた雇用の提供を目指しています。

高橋 私は、重度の知的障害がある息子の存在がきっかけで会社を立ち上げました。コネクトア라운드さんの事業が全国に広がるということは、自分の意志とは関係なく、たくさんの方の力をあきらめざるを得なかった障害がある人たちにとって、働くことにチャレンジできる場が増えるということ。それはすごく夢がありますよね。私たちもその夢と一緒に追いかけてながら、全国に広めていきたいと思っています。

浅井 はい、頑張っていきましょう。今後ともよろしくお願いします！